
超古代遺跡の謎を追え！

唐務新斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

超古代遺跡の謎を追え！

【Nコード】

N1852Q

【作者名】

唐務新斗

【あらすじ】

一万年前に栄華を誇ったとされる超古代文明の海底遺跡から発見された箱の正体はいったい何なのか！

一万年前、超文明が栄えていたという伝説の残る海底遺跡から、複雑怪奇極まる機械らしきものが発見された。

大人が両腕で抱えられるほどの大きさの箱形、複雑な文様が施されている。そして、微かに振動していることが外部からの観察で判明した。

このように状態は極めて良好であり、今もまだ駆動中であることが確認された為、超古代文明否定派は、これがねつ造であり悪質なでっち上げであると非難し、それを徹底調査したが、幸か不幸か、完全否定する証拠は見つからず、マスコミの熱狂もあって、その超古代文明の存在はほぼ確定という風潮が生まれてしまったのだった。

この大発見に、国際的なプロジェクトチームが発足し、世界中の優秀な科学者がこぞって参加を希望した。

果たして、この箱の正体はいったい何なのか。

現代の人類の英知を超えた超兵器なのかもしれない、あるいは宇宙人との交信機ではないか、などとマスコミ受けをねらった発言もお茶の間を賑わせたが、研究自体は実に地味に着実に進んでいた。とは言え、その機械の正体については各国の首脳陣や軍部も大いに興味を抱き、裏側で様々な駆け引きが行われ、ひそかに血を流す事態を引き起こしていたのもまた事実である。

その箱にはネジのようなものが見つからず、また、その機能が生きていることから、出来るだけ非破壊検査するということで意見は一致していた。

それは非常に困難な研究であったが、正体の判明しないものをむやみやたらと分解することを取り返しのつかないことになることを彼らは恐れたのだった。

とにかく科学者たちは誠実に、その機械を分析し、少しずつ、幾重にも重ねられた超古代のベールを剥いでいった。

発見された場所が、古代遺跡で祀られていたと思われる巨大な怪物像の近くであることから、なにかしらの祭祀用途に用いられたのではないかと推測された。

また、それが金属ではなくセラミックであることや、かなり精密な部品で構成されている機械であることが明らかにされた。そして、ベルのようなものが取り付けられており、音を鳴らす構造となっている為に、一種の楽器ではないかという意見も出た。

さらに、海底のような薄暗い場所からでもわずかな光さえあれば、それをエネルギーとして貯蓄し機械の動力とするバッテリーの存在が判明し、その原理の詳細が明らかになれば現代文明のエネルギー問題の解決の糸口になるだろうとも期待された。

そして、長い時が流れ、お茶の間から超古代文明ブームが去っても、科学者たちは研究に研究を重ね、ついにプロジェクトチームは、その機械が何物であるか、その調査結果を大々的に発表した。

すなわち、「目覚まし時計」である。

彼らの計算に誤りがなければ、この目覚まし時計はあと一年と三ヶ月後の午後三時にベルを高らかに鳴り響かせるだろう。

ただの目覚まし時計か、と落胆するものも確かに存在した。特に、超兵器だと煽っていた自称超古代文明研究家は、この発表以降、姿を現さなくなった。だが、一万年前の時計がまだ作動しているのは十分に奇跡的なことである。

「一年三ヶ月後、これがどのような音を奏でるのか、我々は大変楽しみをしている」

記者会見の場で、誇らしげにプロジェクトチームのリーダーは微笑み、その箱を撫でた。

かつて栄華を誇った超古代人を食い滅ぼした大怪獣が、一万年後に再び増加した人類を再び襲うために、目覚まし時計を律儀にセツトしたことなど誰も知らない。もちろん、そのベルの特殊な波長によって、どんなに遠く離れていても確実に大怪獣が目覚めることなど、誰が知りえようか。

古代遺跡の中で、大怪獣は睡眠時の保護用に作り出す石灰質のベールに包まれて夢を見ている。

すべての謎が解明されるまで、あと一年三カ月。

（後書き）

昔、歯医者に『ムー』があつたなあ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1852q/>

超古代遺跡の謎を追え！

2011年1月19日05時26分発行